



平成 26 年 4 月 9 日  
独立行政法人 国立科学博物館

＜地球館地下 3 階 「宇宙を探る」コーナー＞

—歴史的望遠鏡（20cm 屈折赤道儀）展示—

公開日：平成 26 年 4 月 15 日（火）

国立科学博物館（館長：林 良博）では、地球館地下 3 階展示室に 1931（昭和 6）年にわが国で初めて作られた本格的な屈折赤道儀を常設で展示いたします。この天体望遠鏡は、国立科学博物館（当時は東京科学博物館）の建物が上野に建てられた際に屋上の天文ドームに設置されたものであり、1931（昭和 6）年暮れの観望公開開始から 2005（平成 17）年 3 月までの 73 年間、天体観望公開や太陽黒点の観測などに活躍してきたものです。また、1946（昭和 21）年から 1991（平成 3）年の間には、9000 枚にもものぼる太陽黒点のスケッチ観測が行われ、とても貴重な記録となっています。

日本でもっとも長く、たくさんの人々に星を見せてきたこの望遠鏡は、日本光学工業株式会社（現：株式会社ニコン）が製作した日本で初めての本格的な天体望遠鏡で、科学技術史の上でも、当館の歴史を語る上でも非常に重要な資料のひとつです。

ちなみに、この望遠鏡は、日本画家太田聴雨の作品「星をみる女性」のなかで和装の女性が覗く天体望遠鏡のモデルになったとされ、後にこの絵画は記念切手にもなりました。

このたび当館において 9 年ぶりに常設展示として 4 月 15 日（火）から一般公開いたします。

広報について格段の配慮をお願いいたします。

**【本件に関するお問い合わせ先】**

国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 担当：池本、酒井

TEL 03-5814-9857、9852 FAX 03-5814-9898

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

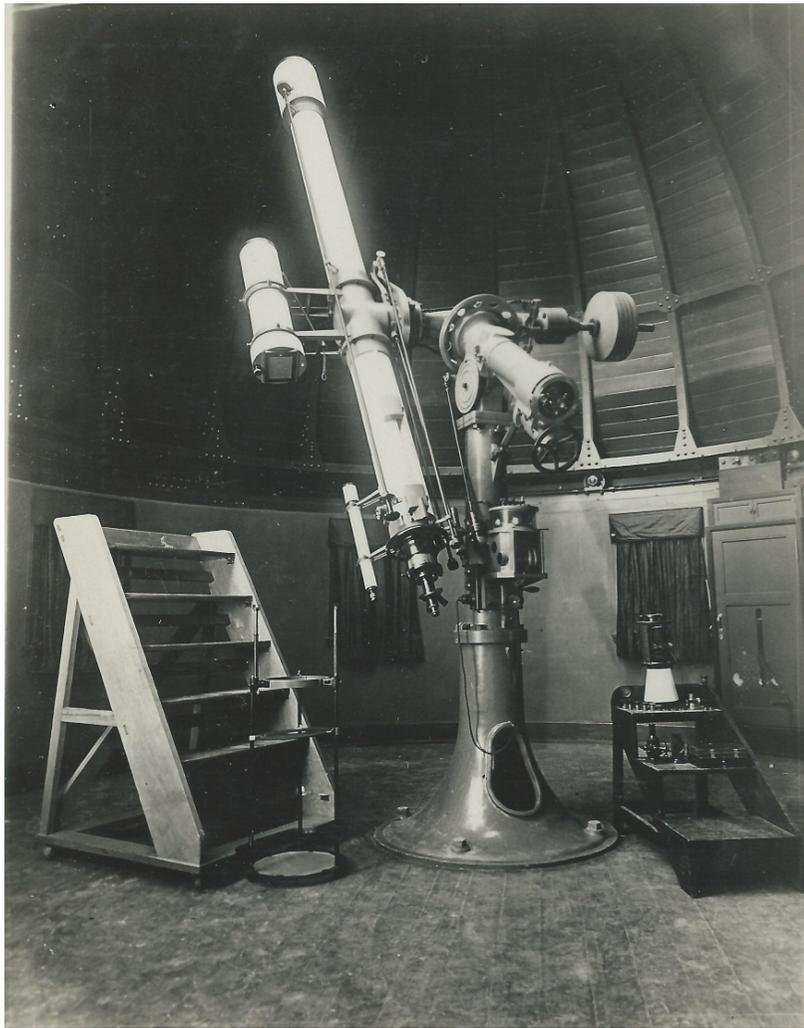
E-mail: jyo-ten@kahaku.go.jp

**【研究に関するお問い合わせ先】**

国立科学博物館 理工学研究部 天文学・宇宙科学研究主幹 洞口俊博

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

（代表）029-853-8901



昭和6年に設置された当時の20cm屈折赤道儀



現在の展示写真